

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 9 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100843		
法人名	医療法人好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂東		
所在地	広島市東区戸坂千足1丁目12番46号 (電話) 082-220-3000		
自己評価作成日	平成30年8月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100843-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年9月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「その人らしい生活」の提供を実現するために、ご利用者の担当者は個々の生活歴を理解し、細やかに気を配り、気づき、行動し、安心して安全な入浴、気持ち良くトイレで排泄、おいしい食事を提供し、「当たり前の生活」を送っていただけるよう支援している。認知症カフェや地域の祭りの参加、また、施設行事に地域の子供達、職員の子供、地域住民の方に参加していただき、世代交流を図っている。担当医師が月に2回訪問診療を行い、訪問看護師と連携し、24時間体制で日々の健康管理や急変時の対応をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>昨年10月に新管理者となった事業所の特徴的な取組みとして、第一に「地域交流の深化」がある。即ち、事業所を地域により深く認知してもらうため、地域住民の参加可能な行事として駐車場での花火大会を実施し、11月にはバーベキューも企画している。又、日頃から買い物や外食で近隣の店舗を利用する等、地域との絆作りも進めている。第二に「本人を共に支えあう家族との関係の深化」がある。即ち、イベントや個別の外出支援に家族の協力を仰ぎ、「共にある」関係作りに取り組んでいる。例えば、定例の家族会とは別に敬老会と同日開催としたり、運営推進会議の参加についても年度毎に家族代表を選び、事業所運営の協力を得ている。又、今年度重点事業方針の柱としてHLC（ハッピー・ライフ・クリエイター）制度の活用によるケアの統一を掲げ、「その人らしい生活」支援を実現するための介助方法や、物的環境整備を工夫している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	経営理念、行動指針、運営方針を朝の申し送り時に唱和し、本日の個々の目標を掲げ評価し、実践につなげるようにしている。	法人の理念・目標の下に事業所の年間重点事業方針の策定と定期的検証を行い、朝礼で理念等の唱和と職員個人の当日目標を発表し、夕方にそれを総括する。又、チャレンジシート（法人独自の管理書式）で職員は目標設定を毎年行い、定期的に管理者との個人面談の中でその実施状況について達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	お祭りなど地域行事の参加や地域にある他法人の介護事業所との交流、認知症カフェにも定期的に参加している。また、近隣のファミリーレストランにご家族や、職員と一緒に利用している。	日頃から近隣の散歩で挨拶を交したり、隣接の外食店舗の利用や近隣の福祉施設行事や認知症カフェ等に参加している。又、地域住民が参加可能な事業所主催の花火大会等で地域交流を深めている。更に手品・踊りのボランティアや亥の子・秋祭りでの子供神輿訪問等、地域との相互交流・世代間交流もなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方が参加可能なイベントを企画し、認知症の理解を深め、世代交流を実施している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、利用者の状況や、サービスの内容、行事報告などを書面と写真にて行い、参加者からの意見などをサービスに反映するよう努めている。	会議には利用者・家族代表・近隣の障害者作業所又は福祉施設管理者・民生委員又は町内会長等の地域住民がほぼ毎回、地域包括支援センターが時々参加している。現況報告や意見交換が行われ、参加者からの提案で火災時の緊急避難場所として隣家の協力が可能となった。又、不参加家族に議事録を送付している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への定期参加を促している。運営推進会議の報告により事業所の取組み、実践を伝えている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員が参加し情報共有を図ると共に、区担当課に開催報告書の送付や会議への参加依頼等を行っているが、今後は担当課に持参して関係強化を図りたい意向がある。又、地域包括支援センター主催の医療と介護の多職種連合会議に定期的に参加する等、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>入社時に受ける基礎研修や事業所内研修などで身体拘束について学ぶ機会を設け理解を深めている。ホーム内は日中は玄関の施錠は行わず、如何なる時も拘束も行わないように努めている。</p>	<p>マニュアルを整備し、研修等にて「拘束はしない」必要性を認識しており、拘束例はない。日中は玄関を施錠せず、玄関の開閉を感知するセンサーによる見守りで対応している。利用者によっては夜間ベッド周辺に床センサー・マットや赤外線離床センサーを設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>「身体拘束等の適正化のための指針」を定め3か月に1回「身体拘束・虐待防止委員会」を開催している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入社時に受ける基本研修にてこれらの制度について理解している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書、契約書等を提示し、具体的に説明するよう努めている。利用者及び家族からの問い合わせ等には十分な説明を行い理解、納得を得るよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を開催し、意見を伺う機会を設けている。面会時には意見を伺うようにしている。個別の要望にもできる限り応えるよう努めている。</p>	<p>利用者の意見は日々の会話の中で把握し、家族とは意見箱を介したり、面会時・毎月のモニタリング・介護計画見直し時や運営推進会議や年2回の家族会等で、利用者毎の担当職員や管理者が積極的に聴く様に努めており、申送りノート等に残して共有している。重度の利用者が多く、家族からの要望は特段ない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は職員と共に介護業務を行い、意見や提案を聞く状況を設けるとともに、少しの時間でも個別に面接を行い、重要なことはすぐ反映するようにしている。</p>	<p>毎月の全体会議、毎日の申し送りや年3回又は随時の個別面談を通して管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員の提案により、臨時薬の点検を専任者から利用者別担当職員も把握できるように薬剤管理表を作成した経緯がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>考課表や職務チェックリストによる個々の職員の評価制度を設け、年3回実施。昇給に反映させている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内でOJT制度を設け新入職者及び異動の職員に対し教育システムを講じている。年内を通し計画的に法人内研修を受けられるようにし、外部研修については、研修補助制度を設け職員のスキルアップを応援する体制が整っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内研修の中で、外部の受講者も募集する研修を設け、交流する機会を作っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居相談時には、ご家族のお困りな点を良く聞き取る。 入居時にはご本人と少しでも早くなじみの関係を築くためコミュニケーションを図る。担当者を定めご家族にもライフストーリーの聞き取りに努める。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族より要望などを聞き取りするとともに、事業所のコンセプトをつたえる。場合によっては、ご家族の協力を必要とすることを理解していただく。密な情報交換により、ご家族に安心していただけるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居相談時に状況を把握し、必要なサービスの提供や紹介を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>自立支援を念頭に置き「共にある」という意識のもと支援している。できることはしていただき、できないことはお世話するのではなく、お手伝いする。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族が面会に訪れやすいように環境設定や雰囲気づくりを心掛けている。ご本人を主体に情報交換を行い、ご家族との時間を大切に、家族とともにご本人を支える関係作りを行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>随時面会を受け入れている。馴染みの場所にご家族などと出向く支援を行うこともある。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしており、家族の協力も含め、自宅で正月を過ごしたり、家族の誕生日に外食等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。又、遠方の妹と故郷へ墓参りをしたり、通院治療で1か月間自宅に帰ることを支援することもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席配置の工夫を行っている。良い所は引き立て、できないところは目立たないようにさりげない支援を心掛けおたがいの関係性がよくなるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当事業所のイベントに参加していただいたり、面会にいかせていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを把握し、生活に反映できるように努めている。意思疎通の困難な方は人生史を深く掘り下げ、ご本人の代弁者となれるよう働きかけ、意向に沿えるよう努めている。	入居時に「ライフストーリーシート」で利用者の習慣や好み等の情報を共有し、その後はその方の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、行動を理解する様努めている。ケアの統一を図るため、毎月情報の更新を行い、意思疎通困難な利用者には表情等をよく観察して思いを推測し、関係作りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にできるだけ負担にならない程度で情報収集し、ご本人、ご家族から情報収集を行うよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	「生活するうえで困らない」という視点を大切に心身状態や、できること、できないことの現状を把握するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人の意向を一番に考え、ご家族からも要望等をお聞きし反映している。職員間で意見を出し合い現状に即した介護計画を作成するよう努めている。</p>	<p>利用者毎の担当職員・介護支援専門員が情報収集し、原案作成は計画作成担当者が行い、面会時に家族の同意を得て本案としている。担当職員が毎月モニタリングを行い、半年を基本に計画を見直す。独居の利用者と遠方の妹との故郷への墓参りを支援し、二人の会話の実現と生きる活力に繋げたプラン例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の活動の記録や介助の実績、発した言葉や体調等を記載し、情報共有や介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個々の「その人らしい生活」を支援するという視点で必要なサービスを提供している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のお祭りの参加や地域のレストランの利用、認知症カフェに参加する支援をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医による訪問診療により、健康管理を行っている。他に必要な受診についても、ご本人、ご家族の希望に沿って支援している。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医とし、協力医から月2回往診があり、専門医の受診は家族による。医療連携により月2回訪問看護師の来訪があり、利用者の健康状態を把握している。又、月1～2回の協力歯科医による往診と相俟って適切な医療が受けられる体制となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護師が医療連携で2週に1回訪問し、健康状態の把握を行っている。その際、利用者の体調管理について相談し助言をもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には、病院の相談員と連絡を取り合い、診療情報提供やサマリー以外に病棟看護師などと密に情報交換するように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時にご本人ご家族に書面を基に説明を行って考えるきっかけを作っている。終末期ケアについては、法人内の他のグループホームの実績により体制は整っているが、当事業所では実績はまだない。</p>	<p>利用時開始時に「重度化した際の指針」で説明し、意向確認を行っている。利用者や家族の要望があれば、看取りを行なう方針であり、看取り経験ある職員や研修会に参加した職員もいる。看取り対応の際は医師・家族・関係者で話し合い、指針に沿った支援を行う考えであるが、事業所としての看取りの経験例はない。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>法人内研修において看護師より急変時の対応について学んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>運営推進会議を利用して、近隣施設や地域住民と意見交換を行い、消防訓練時、消防署員来所時には助言や相談を行っている。</p>	<p>消防署立会いの下、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加にて実施している。地域との協力体制についても運営推進会議の開催日に避難訓練を行い、町内会長を介して隣接施設と事業所が相互に緊急退避場所として利用も可能な旨を伝えている。又、事業所は近隣住民との災害時協力関係の強化に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いや対応はもちろん、介助方法も尊厳を守るよう配慮している。プライバシーの確保についても、トイレのカーテンなどで環境を整備し、職員の申し送りや記録も十分配慮した対応を行っている。	接遇研修等で職員の幅広い知識習得と資質向上を図る体制もあり、職員も利用者目線で対応し尊厳に配慮出来る様取り組んでいる。利用者の話は否定せず、「受容と共感の姿勢」で対応したり、トイレ介助の際も尊厳を守る為にトイレの外に目隠しカーテンを設置する。又、個人情報の取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	笑顔での対応を心掛け、否定や指示的な言葉かけ、対応ではなく、受容と共感の姿勢で自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	落ち着いた生活を送れるよう、一人ひとりへの関りを大切に安心して、その人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月、訪問美容室を利用し、カットや髭剃り、毛染めなど身だしなみに配慮している。ご家族には季節ごとに衣類の衣替えをお願いし、ご本人の好みの衣類を持ってきていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前のテーブル拭きやトレイ拭き、食器洗いなど手伝っていただいている。	三食とも宅配業者の献立により調理された食材が運ばれ、事業所で加熱・盛り付けを行う。食事形態も刻み・ペースト等で対応可能であり、利用者にも食器洗い等、出来る範囲での手伝いをしてもらっている。又、高さ調節可能なテーブル等、誤嚥の少ない前かがみの姿勢が取れる環境面にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>座位姿勢を整え、環境の工夫をし、自分の力で食事や飲水ができるよう支援している。また、個々の状態に合わせた食事形態で提供し、食べていただける工夫をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科と連携を図り、口腔機能管理体制を整えている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>全利用者にトイレ誘導を行っている。それぞれの排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄していただくように努めている。入居後、布パンツに戻った方もおられる。</p>	<p>その日の摂取水分量等を含む「生活状況記録」で排泄パターンを把握している。ここでは特殊な手すりを設置し、便座に座って倒した手すりに寄りかかり、腹部に力を入れ自力で排便し易くしたり、車いすから便座に移乗し易くする工夫がある。又、排泄の自立支援として紙おむつから布パンツに改善した例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>座位姿勢での排便（トイレでの排泄）、水分量、運動、食品の工夫などで便秘の予防に努める。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>環境整備により、当たり前のお風呂に当たり前の動作で入浴できるよう努めている。声掛けの工夫やタイミングの配慮によって気持ち良く入浴できるよう配慮している。</p>	<p>週3回の夕方入浴を基本とするが、利用者の体調や入浴習慣により柔軟に関わっている。入浴は前屈みの座位を取りやすい半埋め込み式家庭浴槽で、浴槽に移乗し易い可動式入浴台や浴槽用手すり等を設置して支援をしている。法人内の独自の研修体制で入浴介助力を高め、お風呂嫌いの方には声掛け等を工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの状況に応じ、居室やソファで休んでいただいている。夜間の安眠を妨げないよう寝かせ切りにはせず、離床時間を設け、メリハリのある生活を支援するように努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬リストはファイル管理し、職員同士が確認を行って服薬介助をしている。症状の変化が見られた時には速やかに看護師、医師に連絡している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>できる家事は手伝っていただき、感謝をお伝えすることを大切にしている。戸外へ出たい利用者には職員が付き添い気分転換を図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>戸外に出たい利用者には、できる限り付き添い、希望を叶えている。個別での外出も希望やご本人の生活歴から意向に沿えるよう支援している。</p>	<p>日頃から近隣の散歩で挨拶を交したり、隣接の外食店舗の利用や近隣の福祉施設行事や認知症カフェ等に参加している。家族の協力で外食・墓参り等に出掛けたり、季節行事として初詣・花見・紅葉狩り等、普段は行けないような所へ外出し、「非日常」を楽しむこともある。事業所駐車場では子供神輿との交流もある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金の持ち込みはできない。本人が望む買い物は、ご家族の同意を得て立替金で購入している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の取次ぎや、手紙などは職員が間に入り支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ルーチン業務として掃除の時間を設け、清潔で快適な空間となるよう努めている。室内は換気を行い、室温、湿度を管理している。</p>	<p>正月・節分豆まき・ひな祭り・お花見弁当ランチ会・七夕・クリスマス等、季節行事の飾り付けで季節を感じてもらい、落ち着いたBGMの中で正月のお節・土用の鰻等、季節を味わう。浴室の可動式入浴台、トイレの特殊な手すり等、「当たり前前の生活」を支えて居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファを設置し、一人でゆっくりとできる場所となるよう配慮している。食事席は関係性を配慮し設定している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に、ご本人の使い慣れた家具や飾りなどを持ち込み、可能な限り自宅に近い環境づくりに努めている。</p>	<p>居室にはベッド・エアコン等が備え付けられている。タンス等、使い慣れた物や家族の写真等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、必要に応じてポータブルトイレや夜間排泄時の転倒防止のためセンサー床マットや赤外線離床センサーを設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ、浴室など、できる限り最期の時まで当たり前前の生活ができるよう配慮し、環境整備している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂東

作成日 平成30年10月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	9	HLC制度は順調にスタートを切ったが、まだ軌道に乗ったとはいえない現状がある。	毎月の情報更新を行い全職員が全ご利用者を理解する。	HLC業務チェックリスト稼働。	6か月
2	13	定期的な避難訓練は行っているが、実際に災害が起こった場合訓練が活かされるか不安がある。	いざという時に落ち着いて行動できる。	スタッフミーティング時に「災害時の対応について」の時間を設け職員全員が普段より意識を持つようにする。	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。